

平成29年度岡山県真庭保健所運営協議会定例会議事録（詳細）

日時：平成29年10月19日（木）

14：45～16：30

（実：15：00～16：10）

場所：真庭地域事務所3階大会議室

1 開 会

- ・資料の確認
- ・会議内容の公開について

2 あいさつ

井上所長あいさつ

- ・昨年とは違った点を2つお話する。
- ・1点目は、平成22年度に始まった『地域医療再生計画推進事業』が、平成27年度で終了した。救急医療体制推進協議会の事業を平成28年度から再開している。
- ・また、昨年は災害をテーマにDHEAT（デヒート：Disaster Health Emergency Assistance Team）と言い、主に災害時に開設した『避難所』における衛生管理に対応する県外からの応援チーム（災害時健康危機管理支援チームと言う）についてお話した。
- ・今年度は新型インフルエンザを含めた1類感染症等での『移送』の準備が進み、来年度はアイソレーターを含む移送車が配置される予定となっている。
- ・2点目は、第7次保健医療計画（平成28、29年度）を策定しておりましたが、今年度は第8次保健医療計画の策定年であり、保健医療対策協議会委員の方にはお世話になっているところです。
- ・本日はよろしくお願ひします。

（議事進行の前に）

- ・委員過半数出席により協議会成立
- ・各委員の紹介は委員名簿参照により省略。
- ・欠席者：新庄村長の小倉委員（代理：中村新庄村副村長）、管内栄養改善協議会長の片岡委員（代理：濱子同副会長）、管内愛育委員連合会長の杉本委員（代理：緒形同副会長）です。
- ・会長・副会長選出にあたり（改選後、初の会議）、互選により下記のとおりとなった。

会長・・・太田市長、副会長・・・前原医師会長

（議長）

- ・前回に引き続き会長を仰せつかりました。関係機関の皆様もいらっしゃることですので、議事に入る前にお願いしたいことがあります。医師不足である。産婦人科医師の

確保について、産婦人科医はひとりで対応することは無いため、現在、ふたりでいっぱいいっぱいの対応である。今年度の中学校の卒業予定者が450人程度で、今、生まれている子供が300人／年くらいである。合計特殊出生率1.82くらいあるが、この状態では高校2つは維持できなくなるなど、真庭の出生についてはあらゆるところに影響してくる。唯一の産婦人科がある落合病院でも200人／程度で、これが無くなったらますますいろいろなところに問題が出てくるようになる。真庭市としても全力で取り組みますのでよろしくお願いしたい。

- ・医師の10万対の人口は岡山県は260人くらいであるが、真庭圏域は180人くらいであり、平等な生存を保障することからすれば、非常に問題である。そういった意味でも全力で取り組んでいく。自治医大の卒業生について、9年間の地元勤務の後にどれだけ定着したのかについて、県の担当に確認しています。
- ・それでは議事に入ります。保健所は私たちの生命に対して重要な仕事をされている。そのためにも関係者からご意見をいただきながら、また、真庭市としても保健所行政を支え、連携していくのでご協力を頂きたい。

3 議 事

(1) 保健所の概要

会議資料により井上所長説明

- ・真庭保健所の概要（本体資料スライドNo.1～19）
- ・平成29年度主要事業概要（別添1）

(2) 平成27年度事業実績及び平成28年度事業計画

◇会議資料により岡田課長説明

- ・真庭保健課分：スライドNo.20～46

○真庭の子どもたちの歯を守ろうプロジェクトについて（スライドNo.43）

今年度から2年間の活動で力を入れている。真庭地域の子ども達の歯の状況はどうなのかを知るため、岡山大学の先生に分析や会議への出席などお世話になっている。

地域の歯科医師会の先生にもお世話になり、進めている

◇会議資料により和田課長説明

- ・真庭衛生課分：スライドNo.47～57〔終〕

○献血事業について（スライドNo.55関係）

管内献血可能人口からみた献血率 6.0%（県5.8%）

管内は高い献血率。愛育委員会、ライオンズクラブの方々のボランティア精神の賜と感謝している。

質疑等

（議長）

それでは質疑に入ります。一生懸命に事業に取り組まれており、こちらから意見を出すことで更に充実した保健所事業になろうかと思えます。

委員

【管内人口及び年少人口・生産年齢人口・老年人口の割合について

・・・スライドナンバー 6】

・それぞれの人口割合が、ここ数年あまり変化がないように見受けられるが、最近の少子高齢社会からすれば若干変動しても良いと思うが如何か。

⇒ 事務局（所長：HPでは事務局のみ）

・まずは相対的に人口が減っているということ。また、年少人口（15歳未満）においても出生数が減っていることから、それを割った場合には『横ばい』という結果になったと思われる。老年人口（65歳以上）については若干増えつつあることから割合も上昇している。

・おそらくは、生産年齢人口から高齢人口に移行していると考えられる。

委員

【平成27年悪性新生物の主な部位別・年齢別死亡状況（管内）について

・・・スライドナンバー 14】

・この表の「胃がん」についてですが、真庭市においては『ABC検診（胃がん発生のリスクを分類し評価する検診）』を7～8年行っている。ここ数年の胃がんの発症状況について数字や傾向がわかればお願いしたい。

⇒ 事務局

・保健医療計画のデータにも入れるのですが、平成25年～28年の状況を見ますと上がっている。

・平成25年の岡山県を「1」とした場合、SMRでは、平成25年が「0.8825」、平成26年が「1.1072」、平成27年が「1.1084」となっている。

委員

・それからすれば、『ABC検診』の効果は今のところ見えていないということですね。

委員

・結果がすぐ出るというものではないと思うが、（資料についても）そういうことがわかるように頑張っていたきたい。

⇒ 事務局

・政策的なところからいえば「大腸がん」のところで、男性でいえば「結腸がん」「直腸S字結腸がん」で女性では「大腸がん」「結腸がん」で、県全体と比較すると以前から高い。

・脳血管疾患の脳出血について（スライドナンバー15）も県から比較すると高い。

・国保の高血圧症の（精検）受診率が下がっている。これが、正しい意味で下がっているのであればいいが、受診しなければいけないのに受診されていない方がいて、そういった方が脳血管疾患に罹る方がいるのではないかと危惧しているところで、かかりつけ医の先生方にも対象者に対して声掛けしていただければと思います。

委員

【真庭地域在宅医療連携体制の推進・・・スライドナンバー 45、46】

- ・この中の「実務者会議」において医師が入っていなかったがその理由は何かあったのか。地域在宅医療は全ての医療機関、介護・福祉関係機関が集まって話をしているか、とまとまらないと思うが。また、真庭地域の一つの統一した大きな組織でもあり、今後の方針と併せてお聞かせいただきたい。

⇒ 事務局

- ・今年度は、医師の方々にお世話になりますし、多職種の方々との連携で懇談会や研修会を予定している。在宅医療においては、医療・介護、また地域の関係者が一緒になって進めていくべきと考えている。今後とも先生方にはよろしくお願ひしたい。

委員

- ・なるべく一緒になって進めてもらいたい。

⇒ 事務局

- ・同じ方向を向いていくように心掛けています。

委員

- ・人口の関係であるが、率というものは魔物であり、絶対数で見ないといけない場合がある。
- ・合計特殊出生率は上がっていても、先ほども話したが、450人（現中学3年生）くらいいたのが、300人くらい（昨年のお出生）となっているのが現状である。この生産年齢人口、老年人口のところについては、60歳過ぎて真庭に帰ってきている方が結構いる。
- ・年齢別の男女比を見ると、20歳代のところは女性の方が都市に出て行く率が高いので、圧倒的に女性が低くなる。
- ・60歳～65歳くらいのところは、先ほど話したように帰ってきているので男性の方が多し。
- ・65歳を過ぎると、どちらかというとなりの方が早く亡くなり、女性の方が多くなる。そういった現象である。
- ・65歳以上の高齢人口の率について、真庭市の推計はで2020年で40%くらいまでいく。それ以後はかなり落ち着いてくると考えている。第一次ベビーブーム時代の方が2040年には減ってくる。全体としては減っているが年齢バランスは取れてくるのではないかと思っている。しかし、絶対数が減ってくるので大変ことに間違いない。またその歯止めはわからない。

委員

- ・先ほどの前原先生のお話にもあったのですが、これから地域包括ケアを推進していき、連携体制を整えていくということですが、ソーシャルワーカーが今重要視されていると思う。医療現場と患者の中を取って、退院とか、介護状況（在宅ケア？）や家族の状況を踏まえてコーディネートしてくれる人がいないと大変なことになるということを知っている。
- ・ある事例で、特養に入っていた人が胃瘻をしたことからその特養では受け入れられない（その施設では対応ができない）ことになり、遠くの施設への入所となった。そこは高齢世帯で面倒を看るのはその妻しかおらず、結局、老老介護の中で面倒を

看ることになった。

- ・こういった時にソーシャルワーカーがいれば、胃癢をせずとも違った選択のできたのではないかと思う。
- ・そういった意味で、この中山間地域のソーシャルワーカーがどのようになっているのか教えていただきたい。

⇒ 事務局

- ・そういった意味では、医療と介護を繋いでくれるケアマネージャー（介護支援専門員）なると思います。ケアマネージャーが各医療機関と連携を持っている。

委員

- ・先ほど私がお話しましたが、医師会を中心とした他の多職種と連携を行って、いろいろな話を吸い上げて、上部で連携を取って下に戻すというような、そういったシステムを考えているところです。

⇒ 事務局

- ・今の件について少しお話させていただく。
- ・「医療ソーシャルワーカー」が各病院にいるかというお尋ねについて、病院の方では、ほとんどのところで居ます。この管内の2病院においては「退院支援ナース」が居り、“医療と地域との連携”ということで、ソーシャルワーカーだけではなくそういった体制を取られている。

委員

- ・資料の43ページですが、歯科保健活動について記載があるが、9月14日に会議を行い、岡大の先生にデータ分析していただいて、真庭のむし歯の特徴について4点上がった。
- ・①長男長女（第一子、二子）と第三子四子を比べると、第三子四子にむし歯が多い。
- ・②おやつ（いわゆる補食）は午前1回、午後1回が基本だが、2回以内までと3回以上では明らかに3回以上がむし歯が多い。
- ・③昼間の保育者（父母、保育所、祖父母）において、父母、保育所では少なく、祖父母が養育している子どもに多い。
- ・④卒乳についてですが、1歳半を越えても卒乳ができない子どもにむし歯が多いという分析である。
- ・母子手帳には、おやつの回数と卒乳の時期が記載されており、おやつの回数が増えることと、卒乳が遅くなることはむし歯が増えることは科学的に分析されている。
- ・医師会と協力してむし歯の指導が必要と感じているところで、「歯っぴープロジェクト」（真庭市事業）と題して、歯科医師会としても講演など精力的に活動している。

会長

- ・今のデータについては、「広報まにわ」に掲載していこうと思うのでよろしく願いしたい。また、保健所は保健所としてむし歯における周知をお願いする。
- ・学校でも、今のデータについてキチッと行って啓発していただければと思います。

委員

- ・学校には保健委員会や給食委員会があり、そこで学校医や歯科医師からお話をしていただける。そこには保護者の方も参加されるのでそういったお話は紹介できると思います。また、学校だけでなく、“こども園”でもそういったお話はされている。
- ・“園”とも小学校は連携しており、そういったことも啓発していけると思う。

会 長

- ・勉強関係でも、まにわではスマホの時間が長いとか、勉強時間が少ないとかが出ており、教育長に、「先生方からそのことを遠慮無く話をしなさい」と言っている。

委 員

- ・学力においても、いろいろと分析をして、「こんな方法でやる」と常に開示している。懇談会やPTA総会等でお示して協力を得るようにしている。

委 員

- ・補足ですが、部活動を3時間し、家に帰ってスマホを3時間している場合が多い。(普通考えたら、部活をしないでスマホをする時間が長いと思いますが、) こういった状況を見ると生活のリズムが崩れていると思います。これが学力等に影響していると思いますので、学校レベルでも言っていただければと思います。

委 員

- ・これについても各校で対策を取っていると思います。自身のコントロール力、自立性というものが大切なんだと、また、スマホの使用が絶対ダメということではないが、1時間未満の子が学力が高いというデータもあり、そういったことを指導に活かしている。
- ・もう一点、自身が読んだ本に「4歳の子におやつ時間が待てるか待てないか」ということが書かれていて、その追跡調査で、「待てる子」が「待てない子」より、将来において随分と“成功”していることが書かれており、小さい時からコントロール力(自律)を培っていくことが人間として“成功“の力となるということが証明されており、各校もそれを捉えて指導に活かしていると思います。

⇒ 事務局

- ・「真庭の歯を守ろうプロジェクト」について、今年度から2年間計画で保健所(真庭市、新庄村の一緒に)が取り組んでいる。
- ・スライドナンバー43の岡大に委託したデータ分析について、今年度については歯科の関係者(歯科医師、歯科衛生士、行政等)を中心にこの課題を共有し、12月の歯科保健関係者の研修会において更に大きな和で共有していく。
- ・来年度は、この問題について住民の方も含めた活動に取り組んで行く予定である。

会 長

- ・まにわには多職種懇談会を含めてみんなで取り組もうとする良さがあるので、それを生かしていこうと思いますので、皆様のご協力をお願いします。

委 員

- ・スライドナンバー16【自殺率の推移】について、他に比べ真庭管内の率が高い気が・・・。

⇒ 事務局

- ・以前から真庭管内は高い。県レベルでは秋田県とか東北地域が高い。

- ・真庭でも男子の方が多く、要因も単身の方や病気など県とほぼ同じである。
- ・保健所としては、愛育委員にも気をつけてもらっているところであり、また、思春期相談や心の健康相談などを（月1回）行っている。
- ・「いのちの電話」というのがあるが、市村の広報紙を使用させていただければと考えている。

会 長

- ・秋田県は画期的に下がっている。秋田県は不名誉を払拭するということで、県として力を入れた結果である。その結果は一度確認しておいていただきたい。

委 員

- ・私としては真庭はいいところだと思っている。残された方もつらいと思うので、何かよりどころがあればと思います。

委 員

- ・（自殺に件に関して、）少子化ということについて、若い人の結婚の機会が少なくなってくると思う。独身の方が年齢を重ねてくると自殺に至る場合もあるので、結婚相談員も居られますが、行政もそういった方を増やして、見合い等の機会を増やしていただければいいと思います。

会 長

- ・〇〇氏が会長で、そういったことをやっているが、なかなかうまくいって（成立）いないのが現状である。
- ・どういう風にしていったらいいか、模索しながらやっている。

⇒ 事務局

- ・昨年度から、県で“婚活”（おかやま縁結びネット：おかやま出会い・婚活サポートセンター）が始まっている。“カップリングパーティー”も県民局単位で行っている。

会 長

- ・その他ご意見はありませんか。
- ・無いようでしたらマイクをお返しします。

5 閉 会（前原副会長閉会あいさつ）

- ・本日は熱のこもった協議会となったと思います。
- ・保健所の業務実績（平成28年度）及び業務計画（平成29年度）をお聞きしましたが、保健所も非常にハードな仕事で職員の増員もさることながら、会長さんからお話しいただいた医師の増員、私の方からは介護職・福祉職の方の増員に関して、この場をお借りして、河野委員にお願いいたしたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

以上